

株式の状況

(平成24年3月31日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数	78,000株
発行済株式総数	19,500株
株主数	618名

大株主

	持株数	持株比率
株式会社アルゴグラフィックス	9,900株	50.8%
セイコーインスツル株式会社	4,080株	20.9%
ジーダット従業員持株会	784株	4.0%
中 修一	235株	1.2%
岩崎 泰次	200株	1.0%
石橋 眞一	150株	0.8%
株式会社エスケーエレクトロニクス	90株	0.5%
株式会社図研	90株	0.5%
大日本印刷株式会社	90株	0.5%
凸版印刷株式会社	90株	0.5%

所有者別状況

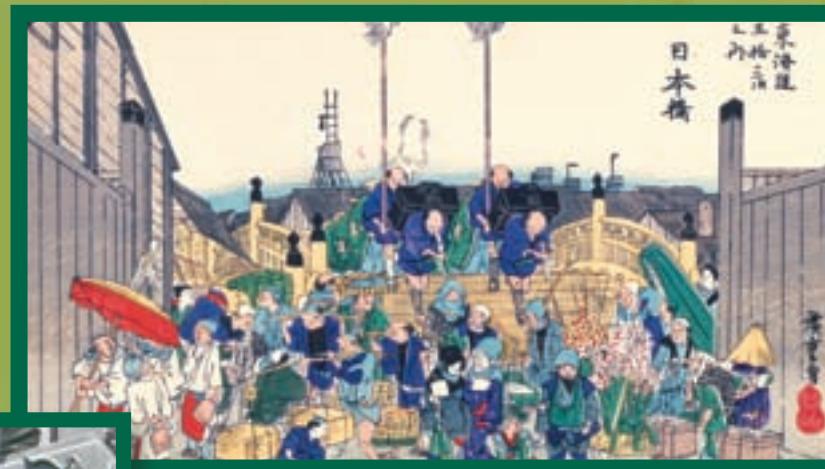
所有者区分	持株数	持株比率
金融機関	53株	0.3%
証券会社	43株	0.2%
その他国内法人	14,344株	73.6%
外国法人等	72株	0.4%
個人・その他	4,688株	24.0%
自己名義株式	300株	1.5%
計	19,500株	100.0%

株主メモ

上場市場	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社になります。	みずほインベスターズ証券 本店および全国各支店 プラネットプース (みずほ銀行内の店舗)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほインベスターズ証券では取次のみとなります)	みずほ信託銀行 本店および全国各支店
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。 みずほインベスターズ証券で単元未満株式の買増請求手続をされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります。
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 (http://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	

証券コード:3841



JEDAT
Japan EDA Technologies

株式会社ジーダット

第10期

株主通信

自平成23年4月1日 至平成24年3月31日



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル
Tel : 03-5847-0312 (代) URL : <http://www.jedat.co.jp>

当冊子に関するお問合せ先
株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

※表紙の写真は、日本橋の中心部にある青銅製照明灯の装飾の麒麟像です。

日本橋が1911年に現在の石造二連アーチ橋に架け替えられてから、昨年、架橋100周年を迎えました。
日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

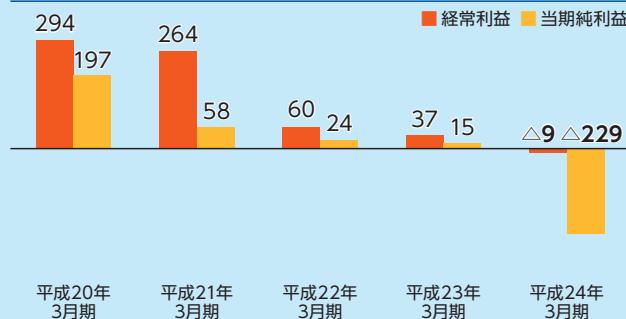
財務ハイライト

(単位：百万円)

売上高・研究開発費



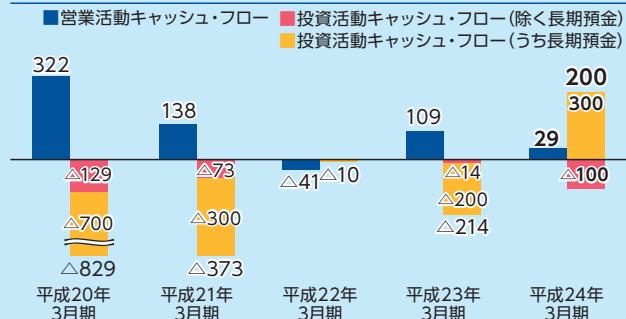
経常利益・当期純利益



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。平成24年6月20日、代表取締役社長に就任いたしました河内一往でございます。6年間の海外駐在を含め、半導体業界約35年の経験を活かし、当社事業のグローバル展開と業績回復に向けて、勇往邁進する所存です。

当第10期は大変厳しい予想のもとにスタートいたしました。連結売上高は前期比7.2%減、期初計画比4.9%減と、期初計画をも下回る結果となりました。特に経常利益は△9百万円となり、創業以来、初めての赤字となりました。

当社の主要顧客である、日本の半導体、液晶パネル企業は長期化する円高や成長市場への対応の遅れ等により、危機的な状況におかれています。根本的な原因は、少子高齢化による国内需要の縮小と製品・製造のデジタル化による参入障壁の低下に起因する新たなグローバル化であると言えます。これらは、彼らの顧客である国内大手電器メーカーが大きな赤字を出していることとも無関係ではありません。この危機的状況を打開して行くひとつの方策がEDAツールの有効化活用による『生産性と信頼性の向上』であります。当社は昨年リリースした、PowerVolt（パワーデバイスの信頼性を高めるための設計支援ツール）のような、顧客要求に適合した特長的な設計支援ツールを開発することにより、顧客のビジネス拡大に貢献すると共に当社の業績向上を実現いたします。

国内では大変厳しい状況が続きますが、2013年

には全世界の半導体産業の売上は約3280億ドル、前年度比+5.8%の成長が予測されており、今後も成長期待産業であると言えます。6月4日から6日にサンフランシスコで開催された第49回DAC(Design Automation Conference)での出展では、当社は『今年の注目27社』に選ばれ、会場では予想を上回る多くの技術者にデモンストレーションを行い、当社ツールの優位性をアピールできました。今回の出展を契機に、海外売上げの拡大に向け、今年度は海外でのプレゼンス向上、サポート体制の確立のための諸施策を確実に実施し、今期以降の継続的な成長に繋げてまいります。

株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長
河内 一往



昭和28年11月10日生
略歴

昭和53年4月	富士通株式会社入社
平成14年6月	同社 電子デバイス事業本部 テクノロジー開発統括部長
平成17年4月	富士通マイクロエレクトロニクス・アメリカ(現富士通セミコンダクタ・アメリカ) 社長
平成21年4月	株式会社ディー・ツー・エス 代表取締役社長
平成23年10月	当社入社 エグゼクティブ
平成24年6月	当社 代表取締役社長(現任)

特集 新社長に聞く、ジーダットのV字回復戦略



Q. EDA市場をどう見えていますか？

世界半導体市場統計 (WSTS : World Semiconductor Trade Statistics) によりますと、2012年の世界の半導体市場は約3,100億ドルであり、今後の伸長率も5.8%と見込まれています。一般にEDA市場は半導体市場の約1~2%と言われていたため、世界では50億ドルを超える市場があるものと推定されます。半導体は、今後も微細化・大規模化が進行していき、設計ツールであるEDAに対する要求も非常に難易度が高くなっていくため、EDAの進化は成長を続ける半導体市場を支えるのに不可欠です。

国内の半導体メーカーは設計の軸足を、アナログやパワー系、更にはセンサーへと移しています。これらの設計対象分野は、今までジーダットが特に開発に注力してきた分野であり、今後、EDAによる高信頼性設計に対するニーズはますます高まるものと考えています。

またEDA市場は、国内だけを見ると現在の状況は非常に厳しいですが、一歩海外に出れば非常に大きな市場が広がっております。当社が今後さらに業績を伸ばしていくためには、是が非でも海外の半導体分野に対して拡販していくことが不可欠になると考えています。

Q. どうやって海外に拡販していきますか？

当社は海外の半導体市場においては無名に近い存在ですので、まずは海外市場で社名を認知させることが必要です。そのため当社は6月初旬に、EDA業界では世界最大の展示会・学会であるDAC (Design Automation Conference) に出展し、これを引き金に営業活動を展開してまいります。

このDAC出展に合わせて、ジーダットの主力製品である「 α -SX」シリーズの中から、高性能なツール群を切り出し、新たに「Anchor」シリーズとして販売を開始いたしました。「Anchor」シリーズは、省エネ対応や高信頼設計等最新ニーズに適合した最新のツール群であり、業界標準のインターフェース (OA : OpenAccess) に対応しています。このため、お客様の既存設計環境にアドオンする形で導入することができ、新ツール導入に対する抵抗感が非常に低くなります。

「Anchor」シリーズによる販売活動を推進することにより、比較的短期間で導入実績を上げていくことを期待しています。詳しくは、この後の「トピックス」のページでもご紹介していますが、まずは「Anchor」シリーズの4つのプロダクトにより、海外販売活動を本格的に加速してまいります。

Q. 国内向けの販売活動はどうしますか？

今回新たにリリースした「Anchor」シリーズは、ジーダットならではの『尖った』ツールであり、国内でも従来とは異なった分野における新たなニーズを掘り起こすことができるため、短期間での新規商談を狙っています。

また引き続き、当社主力製品である「 α -SX」シリーズが誇る強力な設計自動化ツールおよび検証系ツールによる、半導体設計工程全体に対する生産性向上と設計品質向上に関する提案活動を行い、他社の設計環境からのリプレースを促進していきます。

Q. フラットパネル分野に対する販売戦略は？

日本のFPD業界は、現在テレビ向けのパネル分野では大変な苦戦を強いられていますが、高度な技術が必要なスマートフォンやタブレットPC向けの中小型パネルの分野では、まだまだ高い競争力を維持しています。当社はそういった中小型パネルの設計向けに、高性能スペックを達成する配線ツールや高速検証ツール等を開発しており、それらのツールを日本だけでなく、韓国や、台湾にも売り込んでいきます。また中国においては、現在

はまだテレビ向けパネルの設計が主流ですが、今後2~3年以内には中小型パネルの設計へのシフトが起きると考えており、同国にも同様のツールを紹介できるような準備を進めております。

Q. 今後目標とする指標は？

まずは海外市場でのジーダットのプレゼンス (Presence : 存在感) を高め、着実に売上を伸ばしていきます。現在、海外売上比率は全体の10%未満ですが、3年後には30%程度にまで上げることを目標にします。

まだまだやるべきことは沢山ありますが、当社の国内外の売上高を、できるだけ早い段階で元の水準 (20億円) に戻せるよう、社員一同、一丸となって頑張っています。



業績の概要

国内市場の縮小傾向が続き、減収減益

当社企業グループの主要な顧客である半導体ならびにFPD(Flat Panel Display)の電子部品業界は、世界的な低価格化と円高の影響から抜け出すことができず、利益を出せない状況が続いています。特に液晶パネルは過剰な価格競争により世界TOP4の企業ですら赤字となっています。このため設計設備に対する投資を年々減少させ、国内市場は引き続き縮小傾向が継続しています。こうした状況の中で、当社企業グループは従来の「生産性の革新」に加えて、顧客のフィールドコストの大幅削減を目指した「高信頼性設計」のための製品群を開発し、新たな需要の掘り起こしを行ってまいりました。また、海外では特に中国FPD市場での拡販に力を注ぎ、中国市場仕様製品の開発や販売力を強化してまいりま

した。しかしながら、国内顧客の強い投資引き締めや、下半期の中国市場の投資減速などにより、新たな活動による短期的な成果は限定的なものとなりました。

当連結会計年度における連結売上高は13億31百万円（前期比7.2%減）となりました。その中で、費用の徹底的な見直しを行いました。同時に今後の固定費構造の改善のために計画外の本社移転を行いました。その一時的な費用発生等もあって連結営業損失は92百万円（前期は営業損失14百万円）となりました。販売費及び一般管理費が前期比で6.3%増加したのは、新製品等への開発シフトで主に研究開発費が増加したことによりですが、その相当部分が売上原価から減少しており、固定費全体

(単位：百万円)

	平成21年3月期業績		平成22年3月期業績		平成23年3月期業績		平成24年3月期業績		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	2,074	100.0%	1,512	100.0%	1,434	100.0%	1,331	100.0%	△7.2%
売上総利益	1,474	71.1%	1,025	67.8%	1,006	70.1%	993	74.6%	△1.3%
販売費及び一般管理費	1,247	60.1%	1,089	72.1%	1,021	71.2%	1,085	81.5%	6.3%
営業利益又は営業損失 (△)	227	11.0%	△64	△4.3%	△14	△1.0%	△92	△6.9%	—
経常利益又は経常損失 (△)	264	12.8%	60	4.0%	37	2.6%	△9	△0.7%	—
当期純利益又は当期純損失 (△)	58	2.8%	24	1.6%	15	1.1%	△229	△17.2%	—

としては減少しております。営業外収益として助成金収入他を計上した結果、連結経常損失は9百万円（前期は経常利益37百万円）となりました。また当期および今後の業績動向を勘案し、繰延税金資産の

回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の取崩しを実施したことにより、連結当期純損失は2億29百万円（前期は当期純利益15百万円）となりました。

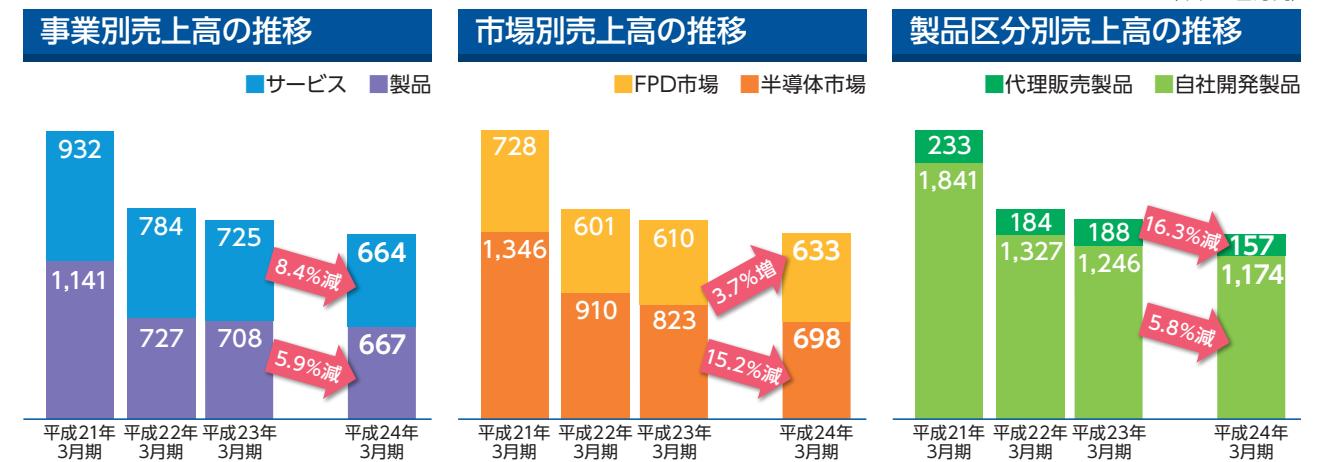
売上高は、半導体市場15.2%減、FPD市場3.7%増

当連結会計年度における当社企業グループの売上高は、製品及び商品売上高は6億67百万円（前期比5.9%減）、サービス売上高は6億64百万円（同8.4%減）となりました。これら売上高減少の主な理由は、国内既存顧客の設計設備投資抑制の継続、中国FPD市場の下半期減速、国内設計外注費の削減に伴う国内総設計技術者数の減少、世界的な価格下落等によります。

市場別では、半導体市場において顧客企業の設計

設備投資抑制の影響が特に大きく6億98百万円（同15.2%減）となりました。液晶パネル等のFPD市場につきましては、顧客企業の厳しい予算の絞込みは継続したものの、TV用液晶パネルから中小型液晶パネルへの投資シフトが進んだことにより、6億33百万円（同3.7%増）となりました。自社開発製品、代理販売製品の区分では、自社開発製品は11億74百万円（同5.8%減）、代理販売製品は製品強化の若干の遅れ等により、1億57百万円（同16.3%減）となりました。

(単位：百万円)



連結財務諸表

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (平成24年3月31日)	前連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産	2,340,302	2,353,679
現金及び預金	1,969,746	2,054,098
受取手形及び売掛金	172,782	214,975
電子記録債権	57,110	-
有価証券	99,847	-
たな卸資産	4,934	7,207
1 繰延税金資産	-	20,880
その他	37,381	58,017
貸倒引当金	△1,500	△1,500
固定資産	73,260	298,749
有形固定資産	29,492	29,812
無形固定資産	19,301	22,115
ソフトウェア	19,301	22,115
投資その他の資産	24,466	246,821
1 繰延税金資産	-	193,560
その他	24,466	53,261
資産合計	2,413,563	2,652,428

1 繰延税金資産

当期および今後の業績動向を勘案し、回収可能性について慎重に検討した結果、流動資産、固定資産合わせて214百万円の取崩しを実施いたしました。

2 営業外収益

助成金収入81百万円を計上いたしました。

3 法人税等調整額

繰延税金資産の取崩しにより、214百万円を計上いたしました。

科目	当連結会計年度 (平成24年3月31日)	前連結会計年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債	235,649	224,954
買掛金	23,848	34,544
未払法人税等	5,601	8,294
賞与引当金	37,187	40,627
前受金	108,125	82,564
その他	60,885	58,922
負債合計	235,649	224,954
純資産の部		
株主資本	2,178,904	2,432,006
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	561,015	814,117
自己株式	△32,676	△32,676
その他の包括利益累計額	△989	△4,532
為替換算調整勘定	△989	△4,532
純資産合計	2,177,914	2,427,474
負債純資産合計	2,413,563	2,652,428

4 その他の現金及び現金同等物の増減額

績連特軟件（北京）有限公司（JCS）の平成23年1月1日から平成23年3月31日までの現金及び現金同等物の増減額であります。JCSについては、当連結会計年度より、仮決算を実施しております。

5 現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間3ヶ月を超える定期預金9億円によるものであります。

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	1,331,717	1,434,708
売上原価	338,648	428,408
売上総利益	993,069	1,006,300
販売費及び一般管理費	1,085,621	1,021,156
営業損失(△)	△92,552	△14,856
2 営業外収益	85,760	52,912
営業外費用	3,037	88
経常利益又は経常損失(△)	△9,828	37,968
特別損失	776	1,554
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△10,604	36,413
法人税、住民税及び事業税	4,675	6,055
3 法人税等調整額	214,440	15,065
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△229,721	15,292
当期純利益又は当期純損失(△)	△229,721	15,292

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
平成23年4月1日残高	760,007	890,558	814,117	△32,676	2,432,006	△4,532	△4,532	2,427,474
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△19,200		△19,200			△19,200
当期純損失(△)			△229,721		△229,721			△229,721
その他			△4,181		△4,181			△4,181
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						3,542	3,542	3,542
連結会計年度中の変動額合計	-	-	△253,102	-	△253,102	3,542	3,542	△249,559
平成24年3月31日残高	760,007	890,558	561,015	△32,676	2,178,904	△989	△989	2,177,914

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,746	109,584
投資活動によるキャッシュ・フロー	200,150	△214,020
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,200	△19,200
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,118	△3,427
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	212,815	△127,062
現金及び現金同等物の期首残高	854,098	981,161
4 その他の現金及び現金同等物の増減額	2,833	-
5 現金及び現金同等物の期末残高	1,069,746	854,098

1株当たり情報

1株当たり純資産額	113,433円04銭
1株当たり当期純損失(△)	△11,964円64銭

新ブランド『Anchor』シリーズを発表

2012年5月、当社は、半導体設計向けツール群の新ブランド、『Anchor（アンカー）』シリーズを発表いたしました。6月に米国サンフランシスコで行われたEDA業界最大の展示会、“49th Design Automation Conference (DAC2012)”への出展を皮切りに、国内外で広く販売活動を進めてまいります。

『Anchor』シリーズの特長

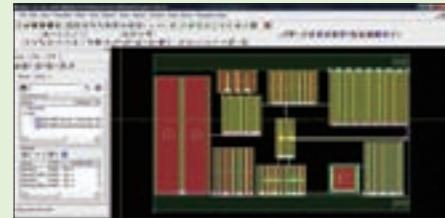
Anchorシリーズは、お客様の設計環境上でお使いいただけるポイントツール群です。半導体の設計環境において、お客様が現在使用中のベースプラットフォーム（環境）を変えることは、非常に大きな労力が必要となります。Anchorシリーズは、お客様の現在の設計環境を変えることなく、しかも設計フローの重要な部分でジーダットの高性能ツールを利用できるようになるため、アナログLSIやメモリ等の設計生産性や信頼性向上を短期間かつ高度なレベルで実現することができます。

『Anchor』には、「しっかりと錨を下ろした安心できる拠り所」という意味があります。ジーダットは、設計フローの重要な部分で、お客様の設計における問題解決の拠り所になっていきたいと考えております。

『Anchor』シリーズラインナップ

アナログLSI向け フロアプラン・ツール 『Anchor Floorplan Package』

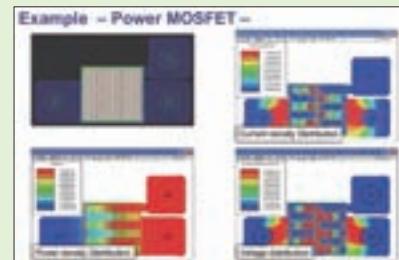
階層的な自動配置機能により、高精度なフロアプランを実現します。



『Anchor Floorplan Package』の実行画面例

パワーデバイス・アナログLSI用 高速・高精度電源解析ツール 『Anchor PowerVolt』

設計の早い段階からEM/IR Drop問題箇所の特定と対策を可能にします。

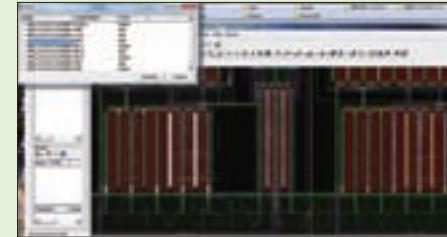


『Anchor PowerVolt』の実行画面例

今後、順次ラインナップを増やしていく予定です。

アナログLSIおよびメモリ向け レイアウト制約検証ツール 『Anchor HayatoDCC』

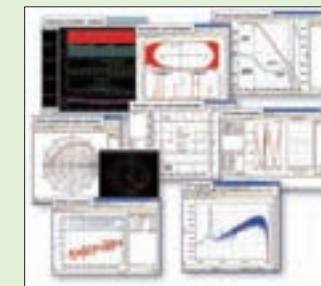
特性、品質および信頼性に関する設計制約を検証します。



『Anchor HayatoDCC』の実行画面例

シミュレーション波形解析 『Anchor SpiceChart』

大規模Spiceシミュレーション結果を、業界トップクラスの大規模データ表示スピード、直感的な操作により、ストレスなく解析することができます。



『Anchor SpiceChart』の実行画面例

会社概要 (平成24年6月20日現在)	
商号	株式会社ジーダット (Jedat Inc.)
所在地	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル
代表者	代表取締役社長 河内 一往
営業開始	平成16年2月2日
資本金	760,007,110円
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング
関連会社	株式会社ジーダット・イノベーション (Jedat Innovation Inc.) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター 績達特軟件 (北京) 有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座409-412室 URL http://www.jedat-soft.com.cn

役員 (平成24年6月20日現在)	
取締役会長	石橋 眞一
代表取締役社長	河内 一往
取締役	増山 雅美 (経営企画部長)
取締役	香月 弘幸 (システム部長)
取締役	伊藤 俊彦 (㈱アルゴグラフィックス 執行役員 経営企画室長)
取締役	松井 義雄 (㈱アルゴグラフィックス 経理部 部長)
取締役	佐原 裕明 (セイコーインスツル㈱ 取締役 財務本部 本部長)
常勤監査役	鈴木 想一
監査役	飯村 雄次
監査役	中村 隆夫 (㈱アルゴグラフィックス 常勤監査役)